

ただ一人のパートナー

オスアラシのぶ
東京都・三三・主婦

ねえあなた。こんな話を知っている？

はるか昔まだ世界ができる前、男と女は背中合わせにくつついた一人の人間だった。

それが神様の怒りに触れて巨大な雷にうたれ、別々の人間にされてしまった。とても不完全ないきものに。

それ以来人間は自分の片割れを探し続けているんだって。ロマンチックでしょう。世界のどこかに自分の片割れ、自分だけの人がいてお互いを探しているなんて。

私たちは道路の真ん中でふと目が合って見つめ合った。立ち止まったままお互いに目をそらす事ができなかった。あなたは私を凝視していた。た

だひたすらにじっと。

あなたの瞳はとても深くて、私の全てを見ているみたいだった。その瞳の中に、私はとても温かくて懐かしい光を見つけた。

「やった。私だけの人みつけた！」

次の瞬間私は心の中で叫んでいた。

私たちは強くひかれあい、それが当然のように結婚した。

映画のような出会いでも一緒に生活をすればロマンチックじゃない部分も見えてくる。私はあなたが一度履いた靴下を壁とソファアの間の隙間に隠して、翌日にもう一度履く事を知った。休日はゴロ寝が一番だと思っている事や、最近でっばってきたお腹を気にしてる事も。そんなあなたの全てを私は愛しいと思う。

あなたは私にとって夫であり恋人。息子で愛人で父でもあるただ一人のひと。一緒に年を重ねていく大切なパートナー。一人では見られない世界

も二人でなら見る事ができる。瞳の中の光は日々温かく力強くなっていく。おじいちゃんになったあなたと、私は手をつないで歩きたい。あなたはおばあちゃんになった私と手をつないでくれるかな。

最後にひとこと。

私を見つけてくれてありがとう。

*国際結婚をして二年。言葉や習慣の違いにとまどい、泣きたくなる事もありました。日本語を勉強中の主人にいつか読んで欲しいと、思いを込めて書きました。